

平成30年度岐阜県大会

生徒講評文

8月	2日	1校目	海津明誠 高等学校
Tの懊悩			(既成・ 創作)
<p>女がスカートを履くのは当たり前、男がズボンを履くのは当たり前。それを当たり前だと決めたのは誰なのか、当たり前とは何か。舞台はある学校の生徒指導室。生徒指導担当の先生3人と、性同一障害である美子、その親友である孝の、自分の在り方について葛藤する様子が描写されていた。</p> <p>劇中に幾度となくでてきた「こんなはずじゃなかったのに」という台詞や、男子の制服を着た美子から、テーマは「勇気を出してありのままの自分を見せていくこと」だと感じた。タイトルのTは、登場人物の姓の頭文字がすべてTであることの他に、teacher、transgenderのtを表していると思った。</p> <p>役者同士の会話の流れが自然であり、本当に教師なのではないかと思うような発声、話し方によるリズムカルな会話で、観客の心をしっかりとつかんでいた。男装、女装の演技を自然に行っているのも見事だった。しかし、語頭の音量が大きい分、語尾が聞きづらく、台詞が流れてしまうところがあった。美子が先生に謝りに行くことを決意する場面では、先生に失礼な言い方をしたことを謝るだけであり、そこには、自分の生き方を変えるという意志はないのではないかと感じた。</p> <p>全体的に装置の作り込みが素晴らしく、本当の生徒指導室のような舞台であった。パソコンの画面も、観客側に反射しないような工夫がされていた。</p> <p>孝と美子の関係性が分かりやすく描写されており、見ている側も、孝がなぜ女子の制服を着たのか、考える手助けとなっただろう。</p> <p>最近話題となっているLGBTのことを、コミカルに、かつ訴えかけるように最後まで演じきっていた。</p> <p>海津明誠高校の皆さん、お疲れさまでした。</p>			
			大垣南高校 大橋愛未

